伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後最終主日礼拝のしおり

2022年11月20日

前奏

招きのことば：詩編 121 編 1-8 節

【都に上る歌。】目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。わたしの助けはどこから来るのか。
わたしの助けは来る 天地を造られた主のもとから。
どうか、主があなたを助けて 足がよろめかないようにし まどろむことなく見守ってくださる
ように。 見よ、イスラエルを見守る方は まどろむことなく、眠ることもない。
主はあなたを見守る方 あなたを覆う陰、あなたの右にいます方。
昼、太陽はあなたを撃つことがなく 夜、月もあなたを撃つことがない。
主がすべての災いを遠ざけて あなたを見守り あなたの魂を見守ってくださるように。
あなたの出で立つのも帰るのも 主が見守ってくださるように。 今も、そしてとこしえに。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。
私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

イエス様はご自分をあざ笑い、辱め、そして十字架につける人々のために「天の父なる神様、どうぞこの人々をお赦しください。自分で何をしているのかわからないでいるのですから」と祈られました。私たちは戦いを好まないのに、なぜか敵と味方に分かれて相手を打ち負かすことを好みます。しかし自分を傷つける人のために祈られた主イエス様の驚くばかりの威厳と愛は、私たちの思いをはるかに超えています。そして、その祈りは、知らず知らずのうちに神様に背中をむけて歩む私たちのためにも祈られていることを感謝をいたします。どうか、今朝も私たちが主イエス様の愛と憐みによって生かされていることを自覚させてください。私たちも人々の罪を赦して、その人々とともに幸せをつくって歩む一週間とさせてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：コロサイ人への手紙 1章 11-20節

そして、神の栄光の力に従い、あらゆる力によって強められ、どんなことも根気強く耐え忍ぶように。喜びをもって、光の中にある聖なる者たちの相続分に、あなたがたがあずかれるようにして下さった御父に感謝するように。御父は、わたしたちを闇の力から救い出して、その愛する御子の支配下に移して下さいました。わたしたちは、この御子によって、贖い、すなわち罪の赦しを得ているのです。御子は、見えない神の姿であり、すべてのものが造られる前に生まれた方です。天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、王座も主権も、支配も権威も、万物は御子において造られたからです。つまり、万物は御子によって、御子のために造られました。御子はすべてのものよりも先におられ、すべてのものは御子によって支えられています。また、御子はその体である教会の頭です。御子は初めの者、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、すべてのことにおいて第一の者となられたのです。神は、御心のままに、満ちあふれるものを余すところなく御子の内に宿らせ、その十字架の血によって平和を打ち立て、地にあるものであれ、天にあるものであれ、万物をただ御子によって、御自分と和解させられました。

福音書朗読：ルカによる福音書 23章 33-43節

「されこうべ」と呼ばれている所に来ると、そこで人々はイエスを十字架につけた。犯罪人も、一人は右に一人は左に、十字架につけた。そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです。」人々はくじを引いて、イエスの服を分け

合った。民衆は立って見つめていた。議員たちも、あざ笑って言った。「他人を救ったのだ。もし神からのメシアで、選ばれた者なら、自分を救うがよい。」兵士たちもイエスに近寄り、酸いぶどう酒を突きつけながら侮辱して、言った。「お前がユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ。」イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王」と書いた札も掲げてあった。十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののしった。「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ。」すると、もう一人の方がたしなめた。「お前は神をも恐れぬのか、同じ刑罰を受けているのに。我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」そして、「イエスよ、あなたの御国においてになるときは、わたしを思い出してください」と言った。するとイエスは、「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。

讚美歌 280 番

- 1 我が身の望みは ただ主にかけられり 主イエスのほかには よるべき方なし
※我が君イエスこそ 救いの岩なれ 救いの岩なれ
- 2 風 いと激しく 波立つ 闇夜も みもとに碇(いかり)を 降ろして安らわん ※
- 3 この世の望みの 消えゆくときにも 心は動かじ 御誓(みちか)い 頼めば ※
- 4 見ぬ世に移りて まみゆるその時 主の義をまといて 御前(みまえ)に立たまし※アーメン

説教：「イエスよ、わたしを思い出してください」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

今日は聖霊降臨後最終主日です。さきほどイエス様のご生涯をかけて私たちのためにしてくださったことを読みました。十字架にかかってくださったことです。悔い改めてイエス様を救い主と信じたふたり目の強盗は、イエス様に「あなたは今日、わたしとともに楽園にいます」と言われました。この人は犯罪人でした。そして、裁判で死刑判決を受けて十字架につけてられていました。しかし、十字架の上で、悔い改めてイエス様を救い主と信じたので、イエス様から、あなたは自分の犯した罪のために今十字架にかかっている、もうすぐ死のうとしています。しかし、あなたは今日、わたしと一緒に天国にいることになりました、と仰っていただきました。

イエス様が罪を赦してくださる、ということはわかっている、こんなひとの罪も赦してくださるとは私たちの思いを超えた赦しですね。また、この犯罪人は神様に罪を赦していただいたことを、あなたは今日、わたしとともに楽園にいます、とイエス様に言われたことで知ったのですから、死んでもいきるいのちをいただいていますね。

さて、イエス様を十字架につけた二種類の人がありました。まずは、総督のポンテオ・ピラトです。ローマ帝国からイスラエル地方の管轄を任された総督という立場にいました。この人が死刑の判決をくださなければローマ帝国では誰も十字架につけられませんでした。ポンテオ・ピラトは、イスラエルの民からイエス・キリストを十字架につけてほしいと頼られました。自分でイエス様を尋問して、いろいろ調べてみました。しかし、イエス様には何の罪もありませんでした。ヘロデ王にも頼んで調べてもらいましたが、ヘロデ王もイエス様に何の罪も見つかりませんでした。けれども、総督ピラトが人々に、イエス様は何の罪もないので釈放します、と伝えたところ、猛反発を受けました。人々は、その男を殺せ、と言ってききませんでした。ピラトは三度目にイエス様には罪がないので釈放する、と言いましたが、人びとはあくまでも大声で、十字架につける、十字架につける、と叫んで要求し続けたので、ピラトはついに彼らの要求を受け入れる決定を下して、イエス様を彼らに引き渡しました。私たちが毎週告白している使徒信条には、「ポンテオ・ピラトに苦しみを受け」というところがあります。ピラトは人々の声に負けました。暴動が起こっては、総督としての自分の地位も危なくなります。そのため、正しい裁きをせず、人びとに妥協してしまいました。そのときピラトは、良心に逆らって、また、自分の職務上の責任をごまかして、人びとの声に負けて、イエス様を十字架刑に処する決断を下しました。救い主イエス・キリストは、ローマ帝国の権威をあずかっていた総督ピラトの間違った判断によって十字架につけられました。

もうひとつの種類の人、この異邦人ピラトの助けを受けて、救い主イエス様を十字架につけて殺したイスラエルの人びとです。総督の判断を押しきって、イエス様をついに十字架につけたイスラエルの指導者、祭司長や律法学者や民の長老たちの恨みは相当なものでした。何度もイエス様をとらえて殺そうと計画しましたが、民衆の心がイエス様に向いていたため断念しなければなりませんでした。しかしイエス様のお弟子のひとり、イスカリオテのユダが裏切ったために協力を得ることができて、一気にイエス様をとらえて国会で尋問をし、総督ピラトのもとにイエス様を死刑にする嘆願を出したのです。

なぜそこまで祭司長や律法学者たちはイエス様を殺そうと思ったのでしょうか。彼らは旧約聖書に書かれている律法を守って、民にも教えていた立派な人なのではなかったでしょうか。律法学者やファリサイ派の人びとは、神様のおきてに従わなければなりません、と人々に教える人びとでした。少し歴史の背景があります。

旧約聖書にはイスラエルの人びとの強い大きな国をつくったダビデ王がいます。ダビデ王は罪赦されて神様と共に歩むことを喜びました。しかしその息子ソロモンをはじめ、次々に出てきたイスラエルの王様たちは、神様の律法を守らないで、異教の神々を拝んで、民にもそうさせてきたため、国が滅びてしまいました。神様はそうならないように何度も預言者たちを送って、神様に逆らい続けると滅びると警告と、神様に向きかえて神の民として歩むと、その罪を赦して彼らの王国を祝福するという約束を伝えました。それでもかたくなで傲慢なイスラエ

ルの王様たちは態度を変えませんでした。ついに近くの大国バビロンの王様の軍隊に包囲されて、エルサレムは陥落し、人びとは捕虜として連れていかれてしまいました。そのあと、一部の人びとはエルサレムに帰ることができて、神殿を再建することができたのですが、深く反省した律法学者やファリサイ派の人びとは、王様たちがした失敗を決して繰り返さないように、特に注意して神様の律法を守ることを自分たちに課し、また人々に厳しく教えてきました。神様のお送りくださる救い主、メシアが来たら、またダビデ王のときのように強い大きな国をつくってくれると期待していました。

しかし彼らは熱心さのあまり、そのうちに、神様の律法を守らない人たちをだめな人、罪びとと呼んで区別し、自分たちはしっかりと律法をまもっているから神様に祝福されたあるべきほんとうのイスラエル人だ、と考えるようになって、聖書の教えから離れていきました。

イエス様は救い主、メシアとしてきてくださいました。イエス様は方々で神様の教えを教え、神様の権威と力をもって、病気の人、貧しい人、徴税人というような、困っている人の友となって助けてくださいました。神様の捨て身の愛はすべての人にとどきます。この神様に従って歩むことが、神の国の生き方です。本来なら、律法学者やファリサイ派の人びとは喜んで救い主のイエス様を迎えるはずでした。しかしイエス様は律法学者やファリサイ派の人びとの間違いを知っていました。彼らが自分たちでは律法を守っていると思い込んで、実際には弱い人々をさげすみ、神様の愛をもって隣人を愛することから遠く離れた自分たちだけの世界にいたからです。イエス様はかつての預言者のように対話をしました。ファリサイ派の人びとが実際には神様のねがっておられる律法を守っていないのに、自分では正しいと思っていることを示しました。悔い改めて神様を信じるように願っておられたのです。しかし、イエス様を認めませんでした。何と残念なことでしょうか。律法学者やファリサイ派の人びとは、自分たちの考えで神様のこと、救い主のこと、神様に喜ばれる生き方のことなどを決めて、神様から遣わされた本当の救い主のイエス様が来た時に、まったく受け入れることができませんでした。

イエス様は人々に悔い改めを迫りました。神様の赦しと新しい命を与えられました。このイエス様のおっしゃること、なさることに反発して、むしろ、自分を神とし救い主、メシアとしているイエス様を、自分を神とする許しがたい冒涇者として糾弾するようになりました。ローマ帝国に訴えるために、イエス様がご自分をメシアとしていることを逆手にとって、イエス様がユダヤ人の王だと自称してローマ帝国に対して逆らうように民衆をまどわすものだとすることにしたのです。

このような自分の立場を守ろうとする人々の、執拗な、殺意に満ちた策略によって、イエス様は不当な裁判を受け、十字架につけられるようになりました。

今日読まれた箇所は、イエス様が「されこうべ」と呼ばれる丘で十字架につけられたところです。イエス様は弟子に裏切られました。民の指導者に憎まれて民衆もイエス様を殺すことに同

意していました。総督ピラトは自分を守る弱い心によって、イエス様を十字架につけてしまいました。十字架にかけられたイエス様はなんとおっしゃったのでしょうか。「父なる神様、この人々をお赦しください。自分で何をしているのかを知らないのですから。」と、彼らが罪に定められないように執り成しておられます。

イエス様は罪びとのために十字架にかかってくださいました。それはイエス様を裏切り、イエス様がいることが自分に都合が悪い、イエス様を殺さないと自分に都合が悪いという人々の罪のために、十字架で死んでくださったのです。自分の死によって、この人々の罪が赦されるようにと、父なる神様に祈ってくださっています。

ふたりの強盗がイエス様の右左の十字架にかけられていました。ひとりとは民と同じように、イエス様をからかっています。救い主、メシアなんだったら十字架からおりて私たちも救えるだろう。もうひとりがたしなめて言いました。イエス様がなんのために十字架にかかってくださったのか、彼らを赦してください、と祈ったイエス様のことばによって信じたからです。

彼は三つにことを話しました。私たちは自分の罪の当然の報いで十字架についている、と自分の罪を認めました。そしてこの方は何も悪いことをしていない、とイエス様が人々の罪を赦すために苦しみ死のうとしていることを信じて告白しました。そしてイエス様に、あなたの御国に行かれるとき、私を思い出してください、と言いました。あなたは人々の罪を赦す方です、私をも顧みてください、という祈りです。イエス様が来られた理由はただひとつです。それはご自身の死によって、私たちの罪を赦すためです。天の御国は罪赦された者の国です。イエス様は彼に、あなたは今日、わたしとともに楽園にいる、あなたの罪は赦された、神の国に生きるものとなった、と宣告してくださいました。

イエス様は私たちのためにも死んでくださいました。聖霊降臨後最終主日の今日、イエス様が命をかけて私たちのためにしてくださいました最も大切なことを覚えましょう。私たちは、人からも自分でも、このような人は決して赦されてはならない、と思うような、自己中心の罪びとです。また自分でその罪の性質を変えることができません。自分の罪のために正しい神様の裁きが待っています。しかし、イエス様はそこへ生涯と死をもって、私たちの罪を赦してください。自己中心な心の方向を変えて、悔い改めてイエス様を信じましょう。私たちはイエス様がおっしゃったように、楽園に迎えられます。そして、そのときまで、楽園の民として生きます。世にあって、自分が重要な人になるためではなく、むしろ人々と一緒に幸せを作る人として生きます。私たちは人々の自己中心によって苦しめられます。そこで楽園の民として、父よ、彼らを赦してください、と祈って平和を保ち、共に神様の赦しのもとでよき交わりに生きるように心を砕きます。あなたの新しいいのちが今週も道を開いていきます。主イエス様ははつきり約束してくださいます。

するとイエスは、「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。ルカによる福音書23章43節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

讚美歌 515 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 「十字架の血に きよめぬれば、来よ」との御声を われは聞けり
※ 主よわれは 今ぞ行く 十字架の血にて きよめたまえ
- 2 弱き者も みちからを得、この身の汚れを みな拭われん ※
- 3 まごころもて せつに祈る 心に満つるは 主のみ恵み ※
- 4 ほむべきかな わが主の愛、あゝほむべきかな わが主の愛 ※ アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讚美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、あゝみ栄えよ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**

後奏